

研究課題名：潰瘍性大腸炎・直腸癌手術後の High output stoma と腎機能変化に関する後ろ向き観察研究

1. 研究の対象

2010年1月1日～2018年12月31日までに当科で潰瘍性大腸炎・直腸癌に対して一時的回腸人工肛門造設術を含む手術治療を受けられ、その後、一定期間において人工肛門閉鎖術を受けられた患者さん。

2. 研究目的・方法

回腸人工肛門造設後の合併症として、High output stoma（人工肛門からの排液が過多となること）、腎機能低下の報告が見られます。しかし、両者の関連を報告した例は多くありません。潰瘍性大腸炎・直腸癌手術例における回腸人工肛門造設術が High output stoma、腎機能に与える影響について、当院での症例を解析し、検討を行います。潰瘍性大腸炎・直腸癌術後管理における診療方針決定の一助になると期待されます。

研究期間：2021年12月10日（実施承認日）～2025年12月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、年齢、家族歴、病歴、治療歴、手術所見（術式、手術時間、出血量など）、腎機能等の採血結果、投薬内容、ストマからの排液量等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋市昭和区鶴舞町 65 052-744-2250

消化器外科二 病院助教 梅田 晋一

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科消化器外科学・教授 小寺 泰弘